



お知らせ

今年度の水稻情報から、ペーパーレス化の推進のため、つくば普及センターHPでの公開とメール配信になりました。引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

◆5月上旬移植のコシヒカリでは、幼穂形成期に入りました。中干しを終了し、間断かんがいを行いましょう。「基肥+追肥」体系の水田では、追肥の準備をしましょう。

◆出穂2週間前までに畦畔の除草を行い、出穂後にはカメムシの防除を適期に行いましょう！



1. 今年の気象と水稻の生育状況

1) 気象 (平均気温・日照時間・降水量)

◇平均気温

- ・5月は平年並み～やや高く推移しました。
- ・6月は第1半旬(6/1～5)を除き、平年並み～高く推移しました。

◇日照時間

- ・5～6月は5月第6半旬(5/26～31)を除き、概ね平年並み～多く推移しました。

◇降水量

- ・5月は全体的に平年より雨が少なく推移しました。
- ・6月は18日、21日、23日に30mmを超える降雨があり、それ以外は雨が少なく推移しました。
- ・また、関東甲信の梅雨入りは、6/21頃で平年(過去30年分)より14日遅いです。

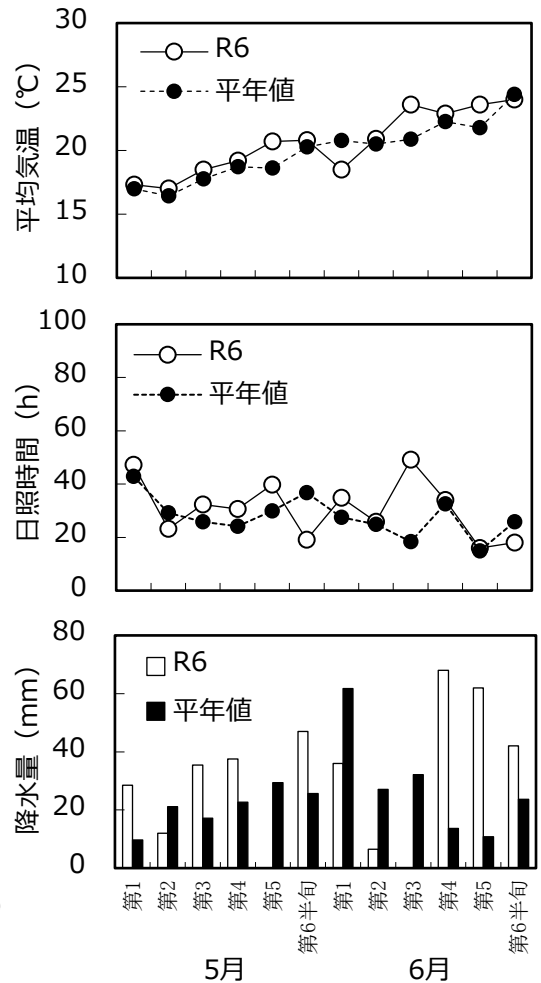


図1 (右) 平均気温・日照時間・降水量
(令和6年つくば市館野アメダスデータより)
(平年値は過去5ヶ年平均)

2) 水稲（コシヒカリ）の生育状況（田植え後 60 日頃）

コシヒカリ ～7月1日調査結果～

- ・コシヒカリの生育は、平年値（過去5ヶ年平均）と比べ、草丈は高く、茎数は概ね平年並み、葉色は平年並み～やや薄いです。

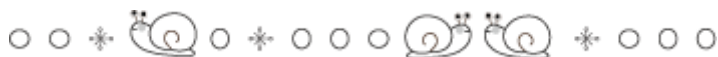
調査地点	調査年	田植日	栽植密度 (株/坪) (畝間×株間)	草丈 (cm)	茎数		葉色 (葉色板)	葉色 (SPAD)
					本/m ²	本/株		
つくば市 上菅間	R6	5/2	50~55 (30×22~20)	77	526	33	3.7	34.9
	平年	5/1		69	560	-	3.9	34.4
つくば市 今鹿島	R6	5/3	50 (30×22)	76	548	37	3.6	33.5
	平年	5/1		68	570	-	3.7	32.7
つくばみらい市 中島	R6	5/2	61 (30×18)	80	668	36	2.8	32.6
	平年	4/30		70	630	-	3.0	34.4

※平年値は、過去5年間の数値より算出。

<今年の出穂予測> 7月24日頃 ※調査時の幼穂長は、平均3.2mm

<平年の出穂期> 7月24~25日頃

2. 今後の管理



ポイント1 水管理について

- ①幼穂形成期に入っている水田（特に5月上旬移植コシヒカリ）では、中干しを終了し、間断かんがいを行きましょう。
- ②出穂までは3~4日程度湛水管理（入水後、自然落水）し、落水状態で1~2日程度保つというサイクルを繰り返します。
- ③出穂期以降は、湛水の継続日数を2~3日とし、自然落水と入水を繰り返し、落水後は田面が乾く前に入水しましょう（図2）。常時湛水や、田面が完全に乾くほどの水分不足にならないように気をつけましょう。

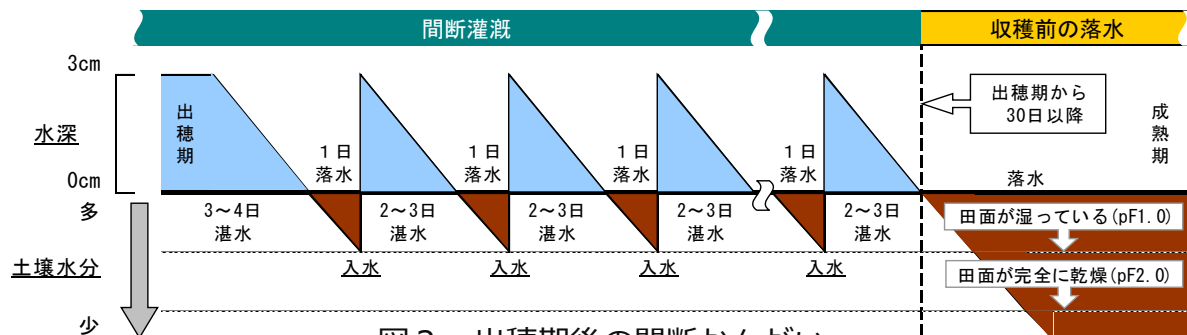


図2 出穂期後の間断かんがい

④早期落水は品質低下（乳白粒や胴割れ粒など）につながりますので、「間断かんがい」は出穂後 30 日まで続けてください（最終入水は出穂期から 27 日以降）。

ポイント2 追肥について（適正生育量の範囲内であれば、追肥を行きましょう）

表1 品種ごとの適正生育量および追肥量

品種名	確認する時期	適正生育量	左記のように生育した場合の追肥量	作成
あきた こまち	①移植後 50 日 ②移植後 60 日	①茎数 500~650 本/m ² ②茎数×葉色=2,200 程度 (茎数 500~600 本/m ²) (葉色 3.5~4.0 程度)	出穂前 18 日頃に 窒素 2~3kg/10a 施用	茨城県農業総合センター 農業研究所
ふくまる	移植後 55~60 日 (出穂前 20 日頃)	草丈 65~70cm 茎数 500~550 本/m ² 葉色 3.6~4.0 程度	出穂前 18 日頃に (幼穂長 5~10mm) 窒素 3kg/10a	
コシヒカリ	出穂前 20 日頃	草丈 80cm 以下 葉色 4 以下	出穂前 15 日頃に (幼穂長 30mm) 窒素 1~2kg/10a	
夢あおば	出穂前 25 日頃	草丈 71cm 以上	出穂前 20 日頃に窒素 5kg/10a	
		草丈 71cm 以下	出穂前 25 日頃に追肥 または窒素 7kg/10a	
		草丈 81cm 以上	出穂前 20 日頃に窒素 3~5kg/10a	
とよめき ほしじるし	出穂前 25~15 日頃	SPAD 値 36~40 SPAD 値 35~40	出穂前 25~15 日頃に 窒素 4~6kg/10a	機構 農研

ポイント3 幼穂長の長さを測定し(図3)、出穂期までの日数を予測しましょう(表2)

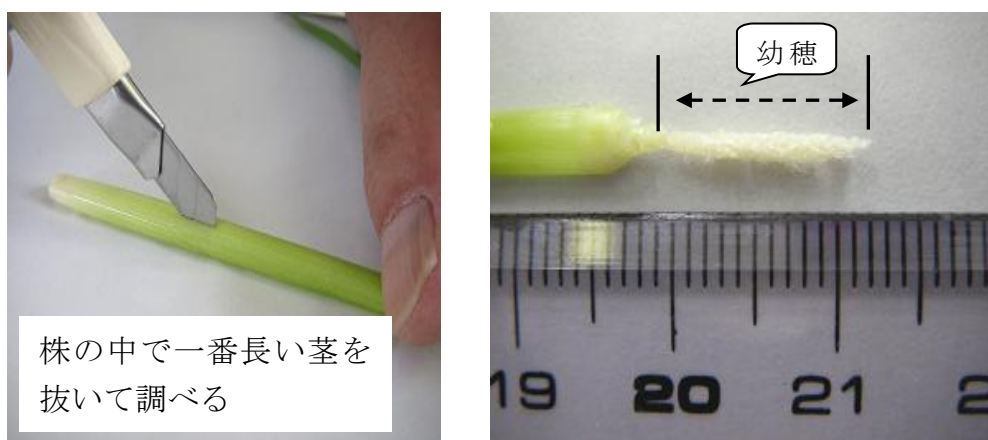


図3 幼穂長の測定方法

表2 幼穂長を用いたコシヒカリの出穂期予測法

出穂期の予測	今後の気温		平年並み					
	幼穂長							
0.5 mm	28	27	26~27	26	25~26	25		
1 mm	26	25	24~25	24	23~24	23		
2 mm	24	23	22~23	22	21~22	21	20~21	
4 mm	22	21	20~21	20	19~20	19	18~19	
6 mm	20~21	20	19	19	18~19	17~18	17~18	
10 mm	18~19	18~19	17~18	17~18	17	16~17	16	
20 mm		16	15~16	15~16	15	14~15	14	
40 mm		13~14	13~14	13~14	13	12~13	12	
60 mm			12~13	12	12	11~12	11	
100 mm			10~11	10~11	10~11	10	9~10	
幼穂長								
確認日	7月1日	7月6日	7月11日	7月16日	7月21日	7月26日	7月31日	

※表中の数値は出穂期までの日数を表す。

高温（平均気温+2℃）の場合、出穂期までの日数は表より2日前後短くなる。

ポイント4 カメムシ類対策

①畦畔周りや周辺の耕作放棄地のイネ科雑草の除草

カメムシ類を水田内に追い込むことになるので、出穂2週間前までには終わらせましょう。



②薬剤防除

カメムシ類の薬剤防除

多発水田では、防除は2回実施しましょう！

1回目 成虫の飛来期

(出穂期～穂ぞろい期)

…この時期に集中的に加害されると
不稔(青立ち)になり、減収につながります。

2回目 幼虫の発生初期

(乳熟期：出穂後10～15日頃)

…この時期に集中的に加害されると
斑点米の発生につながります。

開花中(午前8～12時頃)は受精に影響する可能性があるので、**早朝や夕方などに薬剤散布**しましょう。